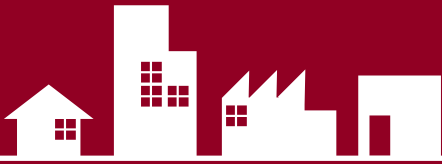


県内初の日本遺産に認定 足袋蔵のまち 行田

ぶぎんのあるまち



シリーズ第6回 行田 -下-

足袋蔵は、足袋の原料や出来上がった製品を出荷するまでの期間、保管しておく倉庫です。行田が江戸時代後半から昭和30年代にかけて足袋づくりで栄えた約100年間に渡って建てられました。

商品や原料を保管しやすいよう、壁面に多くの柱を建てて中央の柱を少なくし、床を高くして通気性を高めるなどの特徴があります。

江戸から昭和という時代の変遷を見るように土蔵、石蔵、れんが蔵、コンクリート蔵、モルタル蔵、木造倉庫など、大きさやデザインも多様で個性に富んだ蔵が約80棟現存しています。

ギャラリー、カフェ、レストラン、そば店、パン屋など再活用されている蔵も多く、「蔵めぐり・まちあるき」をしながらお気に入りの足袋蔵を見つけてみませんか。



① 忠次郎蔵

国登録有形文化財
旧小川忠次郎商店舗及び主屋

足袋原料問屋小川忠次郎商店の店舗兼住宅として大正14年に棟上された2階建て土蔵造りの店蔵。現在は手打ちそば店「忠次郎蔵」として再活用されています。



② 時田蔵

「神武足袋」「かるた足袋」等の商標で知られた時田啓左衛門商店が大正時代頃に建設した足袋蔵です。奥にも明治時代に竣工した足袋蔵が並んでいます。



③ 牧野本店・足袋とくらしの博物館

「力弥足袋」の商標で知られた牧野本店の店舗兼住宅は、大正13年頃に建てられた行田を代表する半蔵造りの店蔵です。右の木造洋風2階建ての工場はNPO法人ぎょうだ足袋蔵ネットワークによって「足袋とくらしの博物館」として再活用されています。全盛期の行田の足袋工場を再現した館内で、足袋づくりの実演見学や、足袋づくり体験をすることができます。



④Café 閑居・足袋蔵ギャラリー門 フチキ建築設計事務所

「ほうらい足袋」「栄冠足袋」の商標で知られた奥貫忠吉商店が大正5年に棟上した足袋蔵です。敷地内には昭和5年棟上の住宅がカフェに、足袋蔵はギャラリー、パン屋、事務所に再活用されています。



⑤大澤蔵

国登録有形文化財
大澤家住宅旧文庫蔵

行田で唯一の鉄筋コンクリート組煉瓦造 2階建ての足袋蔵で、「花型足袋」の商標で知られる大澤商店が大正15年に関東大震災の教訓を踏まえて竣工させたものです。



⑥あんど(奥貫蔵)

白壁が美しい2階建ての大型の土蔵は「ほうらい足袋」「栄冠足袋」の商標で知られた奥貫忠吉商店が大正時代～昭和初期頃に建設したと伝えられる足袋蔵です。現在は蕎麦・創作料理の店「あんど」として再活用されています。



⑦小川源右衛門蔵

近江商人の小川源右衛門商店(カネマル酒店)が昭和7年に建設した大谷石組積造 2階建ての商品倉庫です。足袋蔵ではありませんが、昭和初期の行田を代表する大型の石蔵です。



⑧足袋蔵まちづくりミュージアム

「旗印足袋」「小町足袋」の商標で知られた栗原代八商店が、明治39年に日露戦争後の不景気で仕事を欲しがっていた職人に作らせた、と伝えられる足袋蔵です。現在はNPO法人ぎょうだ足袋蔵ネットワークによって、観光案内所・情報センターとして再活用されています。

NPO法人

ぎょうだ足袋蔵ネットワーク

代表理事 朽木 宏



行田市は江戸時代から足袋の名産地として知られていました。戦後の服飾文化の変化から時代に取り残され、徐々に経営規模が縮小されましたが、現在でも事業は継続され生産が続けられています。その往時を偲ばせる足袋産業遺構を町の文化として大切に残そうと2004年から活動を続けています。

積極的な利活用の術も無く、取り残された原反・製品保管庫の蔵ですが、多くの人に親しんで貰いたいと、一言で行田の蔵を言い表せるキャッチコピーとして「足袋蔵」と命名しました。

後でわかった事ですが、近隣の自治体では中心市街地の指定を行い、その活性化を進めているようですが、行田ではその線引きが難しかったようで、単に「旧市街地」と言うくらいですが、まさにそこに近代化遺産が集中しています。

市の文化財保護課の依頼で、所属する地元の建築士会が悉皆調査を行い、それぞれの店蔵・足袋蔵の状況確認と規模を調べ、行田に残って欲しい近代化遺産の順位付けを行い、かつ利活用に理解のある所有者の賛同を求め、蔵元会議を開催し、所有者の悩み・意向を共有し永く残して来て下さった事に敬意を払いました。所有者の意向が我々の活動に合ったが故にこれまで続けられて来た訳なのでとても感謝しています。振り返ると、活動開始時の様々な呼びかけが、「物置」が町の文化遺産に変わる転換点だった様です。

点→線→面に拡げようと、蔵めぐり(13回)を年に一度、開催しています。

普段は内部を公開してない蔵ですが、様々な作家の皆さんに協力を願い、それぞれの視点で蔵をインスタレーションし作品を展示して頂いています。それを所有者や関心のある皆様に見て頂き「蔵はこの様に使える」と再確認して頂き、利活用の促進を狙っています。活動10年目にして所有者・事業主の資金で漸く活用・成功事例が出来ました。

後継者育成を試みようとして、小学生を対象に「昔体験セミナー」も毎年開催しています。(10回)

忠次郎蔵と牧禎舎を利用して昔の子供達の生活を体験して貰い、市内の他の地域の友達と昔の子供達の生活体験を通して仲良くなり将来のコミュニティを拡げて貰いたいと思っています。